

企業名： SEED

レポート名： 統合報告書 2022 分析

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

理解できる。株式会社 SEED（以下シードと表記する）が掲げるビジョンは、“「見える」に新たな価値を”である。シードは自社の使命を“「眼」の専門総合メーカーとして、お客様の「見える」をサポートすること”であるとし、幅広いコンタクト用品を扱っている。またそれだけでなくレンズ事業の拡大によって社会問題の解決を図っている。例として統合報告書から引用すると、「近年、世界の各地域で、デジタルデバイスの普及に伴う眼精疲労の増加、近視の

低年齢化等が問題になっています。当社は、このような問題に取り組むために、2024 年に中国の合弁会社から発売予定のオルソケラトロジー商品や、デバイスを組み込んだスマートコンタクトレンズ等の販売事業を拡大していきます。当該事業の拡大にあたっては、海外グループの商品ポートフォリオを有効に活用するとともに、物流・他サービスを向上させるべく、欧州の統括と体制改善を進めていきます」とあり、コンタクトレンズが人々を視覚的にサポートするだけでなく、コンタクトレンズにそれ以上の価値を付与しようとしていることがわかる。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

明確に理解できる。シードの強みとして、シードは多様な商品・事業展開、Japan Quality、積極的な研究開発の 3 点を報告している。報告書に記載されていたシードの強みを以下簡潔にまとめた。

① 多様な商品・事業展開

シードの商品は約 36 種類あり、ブランド種は 8 種、度数範囲は+10.00~-24.00 までと国内最大級である。また 40 か国以上に事業を展開しており、海外売り上げは 42.9 億円を記録していると記載されていた。

② Japan Quality

シードの商品はすべて日本国内で生産されているものであり、その生産力は日本一であると記載されていた。

③ 積極的な研究開発

シードの研究開発費は 13.81 億円で研究開発地点は 4 地点（日本・イギリス・ドイツ・スイス）、研究開発員は 88 名である。

報告書はシードの強みが明確に表記されており、わかりやすかったと感じた。シードは商品の幅が大きいことが強みとなっており、その商品力は日本コンタクト業界最大手のメニコンより強いといえる。また積極的な研究開発という点においても、メニコンは総資本の約3%を研究に用いているのに対し、シードは約4.8%を研究に用いているため、研究によるさらなる商品力の拡大が期待できるのではないかと感じた。また海外市場をより開拓していくにあたって、日本産ということは安全性という面で大きな強みになるのではないかと思った。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

理解できる。シードの競争優位性はその商品力にあると上記したが、市場の身長が最も見込まれる遠近両用コンタクトレンズや近視患者専用のコンタクトレンズなどの拡販、新商品投入を行う。また乱視用や遠近両用など特殊機能レンズの売り上げを40%に引き上げると記載されており、商品力はさらに拡大したその需要も拡大していくことが分かった。エネルギー価格の高騰でコンタクトレンズは値上がりしているが、シードはニッチなニーズに対応しているために、これによる影響はそれほど大きくないのではないかと思った。また、先ほど記述した通り、シードはその研究開発に力を入れているため、商品力な拡大にはこれからも期待できるのではないかと考える。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

私はシードで自身の人的資本の価値向上を達成できると思う。シードは公募制のプロジェクトを毎年10件実施している。従業員が、未経験業務にも積極的に挑戦し、主体的に成長できる環境が整備されている。また、新たな役職や業務に挑戦できるポストチャレンジ制を登用しているため、やる気があれば自身のスキルを上達することのできる環境が整っていることがわかる。また、研修が充実しており、階層別研修では業務に必要な専門知識・スキルだけでなく、ビジネスパーソンとして必要とされる一般教養・知識を含めて総合的に学習することができる」と記載されていた。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

シードの統合報告書はわかりやすい図表や文章で書かれていて、とても理解しやすかった。6-7ページにはプロフィール・ESG（環境、社会、ガバナンス）・商品力・生産力・開発力に関する数値が明記されていて、必要な情報が瞬時にわかるところがとても良いと思った。ただ、完全点を挙げるとすれば、表記されている数値が他社と比べて高いのか低いのかわからなかった。そのため、自社の強みをより分かりやすくするために他社との比較が分かる表現があるとよいのではないかと思った。